

各種調査からみた課題

1. ごみの減量化

可燃ごみについては、ごみ質調査の結果から、厨芥類（台所ごみ・未利用食品）が約3割となっています（資料2, P5, No.25～26）。未利用食品については、近年、食品ロス削減に向けた動きが全国的に活発となっていることから、本市においても対策を講じ、ごみの減量を目指す必要があります。

2. 資源化可能物の混入/分別の不徹底

可燃ごみについては、ごみ質調査の結果から、リサイクル可能な新聞、雑誌等の紙類（都市部：18.2%、農村部：12.7%。資料2, P5, No.8～12）、容器包装プラスチック（都市部：6.3%、農村部：8.6%。資料2, P5, No.13～18）等、資源化可能物が混入していることがわかっており、分別が不十分な状況です。

資源ごみについては、87.8%（資料2, P5, No.13～18）が適正に排出されていましたが、一部可燃ごみや容器包装プラスチックなども混入していたことから、分別精度の向上が必要です。

3. リデュース・リユース施策の不足

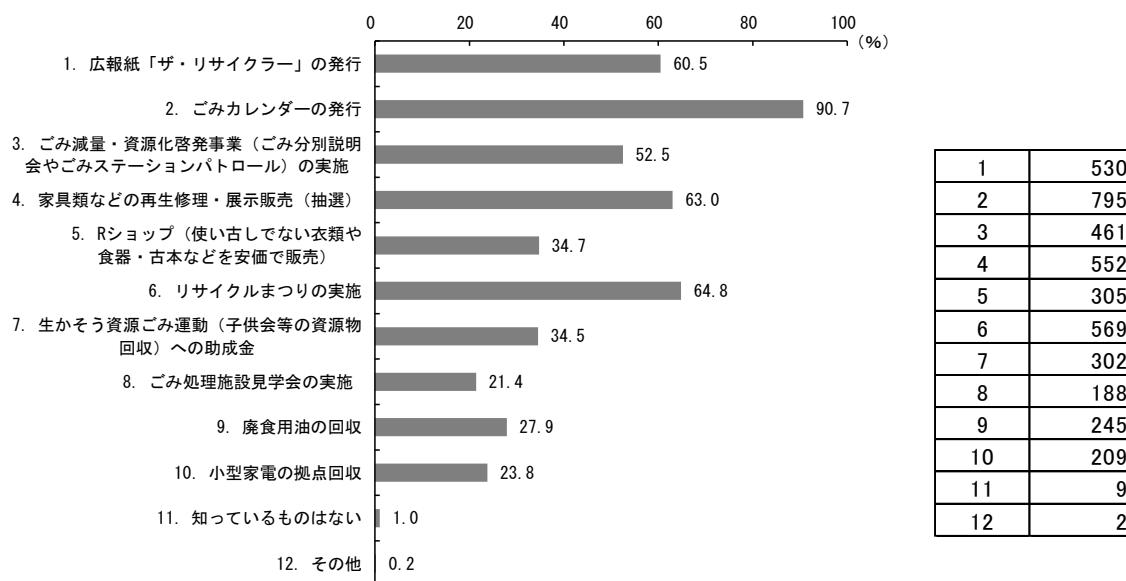
みどり園では、家具類等の再生修理・販売（抽選）のほか、R ショップ等の取り組みが行われています。しかし、住民アンケートにおいて、R ショップの施策認知度は低く（資料3-1, P14）、フリーマーケットなどはリサイクルまつり等のイベント時に開催されており、常設されていません。

また、住民が「知りたい情報」として、「家庭でできるごみ減量の方法」が多く挙げられている（資料3-1, P16）ことから、住民が気軽に取り組み、利用できるリデュース・リユース施策が不足しています。

4. 情報の周知不足（分別、各種施策等）

住民アンケートをみると、現在の施策の中で「R ショップ」や「資源物回収への助成金」、「ごみ処理施設見学会」、「廃食用油の回収」、「小型家電の拠点回収」の認知度が低くなっています。

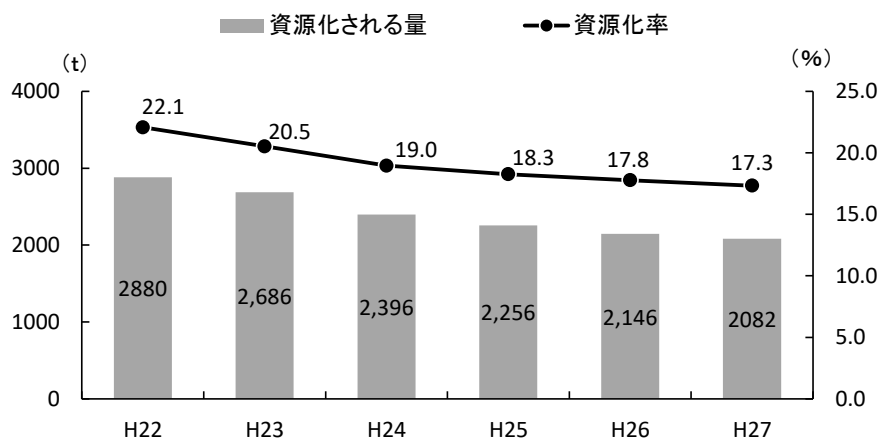
また、分別の際に困っていることについては、「容器包装プラスチック」は『洗う・束ねる等の手間』や『どこまで洗えばよいかわからない』、「金属類」は『異なる素材がくっついて分けられない』、「その他の不燃物類」は『どの分別区分に該当するか分からない』、『素材が分からないものがある』などの意見が多くなっています。自由意見においても分別辞典の作成、広報等での周知を希望する意見があります。施策や分別方法等の情報周知が不足していると考えられ、広報やごみ分別説明会の実施方法等を再検討し、効果的な啓発活動が必要です。



住民アンケート（問8）西脇市及びみどり園が行っている施策の認知度

【参考1】 資源化率の停滞

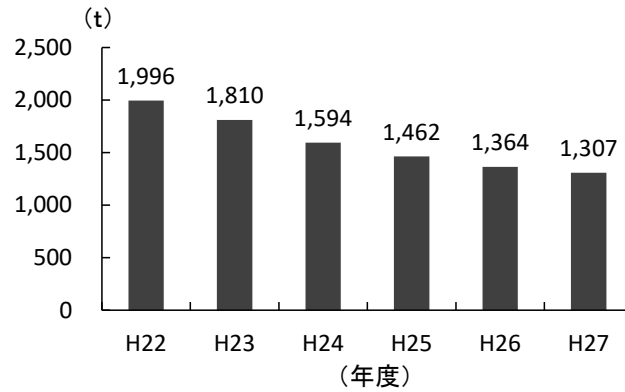
近年、資源化される量は減少が続き、資源化率も停滞しています。資源ごみ回収量とともに、中間処理における資源化量も減少しているため、資源化率を向上させるためには、ごみの総量を減らしながら、資源化可能なものについては出来る限りリサイクルを目指す必要があります。



資源化される量と資源化率の推移

【参考2】 資源ごみ回収（集団回収）量の減少

平成22年度から平成27年度にかけて、資源ごみ回収量（集団回収量）は約35%も減少しています。特に全体の多くを占める紙類の影響が大きいほか、紙パック、白色トレイの減少率も高くなっています。また、住民アンケート調査から、資源ごみ回収の利用状況について「毎回利用している」との回答が70.6%ありましたが、「時々利用している」18.2%、「知らなかったが、今後は利用したい」1.7%、「知っているが、利用したことがない」4.3%という回答が得られたことから、これらの住民の利用頻度を向上させる施策が必要です。



資源ごみ回収量の推移

	H22	H27	減少率
紙類	1,746	1,108	-36.5
紙パック	12	5	-57.4
金属類	11	9	-15.7
ガラス類	0	1	—
ペットボトル	33	27	-17.5
白色トレイ	5	3	-46.7
容器包装プラスチック	1	1	-0.3
プラスチック類	0	0	—
布類	188	153	-18.6
合計	1,996	1,307	-34.5

資源ごみ回収量の内訳と減少率